

赤穂市部活動地域移行について

別紙1

推進する一番の理由は【少子化対策】

近年、特に持続可能性という面で厳しさを増しており、中学校生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化が進行。

生徒数：全国：昭和61年611万人→令和5年318万人に半減

赤穂：令和6年1100人 →令和19年600人に減少



- 少子化の中でも、将来にわたって子供たちがスポーツ・文化活動に継続して親しむことができる機会を確保。(学校の働き方改革推進、学校教育の質も向上)
- 自発的な参画を通して「楽しさ」「喜び」を感じる活動。
- 地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保。

第1の目標として

令和8年度に土日休日の部活動地域移行について全面实施を目指す。

第2の目標として

令和16年度までに平日の部活動地域移行について全面实施を目指す。

	赤穂	赤穂西	赤穂東	坂越	有年	受入団体
野球	○	○	○	○	○	なし(R6.7月現在)
バスケット	○男					○クルール ○赤穂U-15
ソフトテニス	○	○男	○	○女	○	○赤穂テニス
バレーボール		○女	○女	○女		○赤穂ジュニア ○赤蔵バレー
陸上	○	○	○	○		○ランニング教室
卓球	○女	○	○女		○女	○赤穂卓球
サッカー	○	○				△サッカー協会
剣道	○	○	○	○		○剣道連盟
柔道			○			○YAWARA
水泳			○	○		△ST赤穂
文化系	吹奏楽	吹奏楽文化部	音楽家庭科科学	和太鼓		○ジュニアバンド ○赤穂プラス ○羽音色 ○合唱団
運動部	180人 53%	151人 58%	173人 54%	75人 61%	33人 73%	94人 9%
文化部	41人 12%	50人 19%	55人 17%	13人 11%	1人 2%	26人 2%
外部団体・未加入	116人 35%	59人 23%	92人 29%	35人 28%	11人 25%	

赤穂市部活動加入状況

